

た布は特に喰害が少ないことを証明している。昭和 28 年関東支部例会に於いて佐々木ヒロ子は化学染料各種で染めた布についてその喰害を報告した。そこで今回は天然染料と化学染料で染色した布ではその喰害はどのように違うものであるかを「ヒメマルカツオブシムシ」の幼虫を材料として試みた。昨年は天然染料として「スオウ」と「クチナシ」を使用し、その比較の化学染料としてスオウの色に類似の Alizarin red Chromogen red, 「クチナシ」に類似の色として Metanil yellow を使用し、尙媒染剤として明礬を使用した。その結果「スオウ」及び「クチナシ」の天然染料処理布は遙かに化学染料のそれよりも喰害が少なかった。

B-7* 天然染料及び化学染料で染めた布に於ける虫害の比較研究 (第 1 報)

共立女子大学 小川 文代

染料の種類によって染色した布の虫害状態が著しく異なることはわれわれ日常よく経験しているところである。1917 年ドイツの Meckbach は Martius yellow で染め